

飯伊 産業経済動向

No.461 2017/8
(29. 9. 25 発行)



http:// www. iidashinkin. co. jp
〒395-0044 飯田市本町1-2
TEL 0265-53-5811 FAX 0265-53-1132

飯伊地区主要経済指標

主要指標		実数		前月比		前年同月比	
手形交換高 (飯田手形交換所扱)	枚数	3,658	枚	△	1.2 %	△	17.9 %
	金額	4,763,709	千円		15.3 %	△	8.0 %
うち不渡発生状況	枚数	0	枚	(前月 0 枚)		(前年同月 0 枚)	
	金額	0	千円	(前月 0 千円)		(前年同月 0 千円)	
倒産件数 (負債額1千万円以上)	県内	5	件	(前月 7 件)		(前年同月 8 件)	
	飯伊	0	件	(前月 0 件)		(前年同月 1 件)	
住宅着工戸数 (飯田市、下伊那郡 総数)(7月)		53	戸	△	7.0 %	△	8.6 %
有効求人倍率(パートを含む実数) (ハローワーク飯田管内)(7月)		1.55	倍	(前月 1.54 倍)		(前年同月 1.38 倍)	
自動車新規登録台数 (松本事務所管内)	新車	1,708	台	△	21.6 %		0.6 %
	中古車	560	台	△	11.1 %		1.6 %
軽自動車新規登録台数 (長野県自動車協会)(7月)	新車	3,812	台	△	6.9 %		8.0 %
	中古車	919	台	△	16.3 %		6.2 %
中央道利用台数 (飯田インター分)	入	127,896	台		7.2 %	△	1.3 %
	出	129,498	台		8.2 %		1.3 %
中央道利用台数 (松川インター分)	入	87,252	台		7.0 %		1.9 %
	出	86,715	台		8.9 %		4.6 %
中央道利用台数 (園原インター分)	入	20,330	台		45.6 %	△	1.3 %
	出	19,955	台		40.7 %	△	2.1 %
中央道利用台数 (飯田山本インター分)	入	56,889	台		29.9 %		4.0 %
	出	57,624	台		33.5 %		0.5 %
信用保証協会 新規保証件数 (飯田支店管内)		167	件		12.8 %		12.1 %
信用保証協会 代位弁済件数 (飯田支店管内)		8	件	(前月 16 件)		(前年同月 8 件)	
高速バス乗車人数	飯田～新宿	36,781	人		37.3 %		1.8 %
	飯田～名古屋	22,583	人		23.2 %		1.8 %
	飯田～長野	10,346	人		4.8 %		0.7 %
市内循環バス乗車人数	左回り	3,629	人		10.0 %		2.0 %
	右回り	3,520	人		0.6 %	△	4.5 %

◆ 本誌内容は飯田信用金庫ホームページ (http://www. iidashinkin. co. jp) に全文掲載しています ◆

本誌は、当金庫が信頼できると考えるデータに基づき作成されておりますが、データ、記述の正確性、完全性を保証するものではありません。御利用に当たってはご自身の判断によってください。

しんきんは環境にやさしい取り組みを地元のみならずともに行っています。



100%植物性インキ
[リチウム]100%を使用しました。

再生紙を
使用しています

概況

製造業

8月の製造業の業況判断指数(DI)は、プラス16.0で、前月から5.3ポイント上昇。翌月予測もプラス29.2で、前月から1.6ポイント上昇している。

電気、精密機械器具の販売は、前月比やや減少～横ばい。もっとも、やや減少とする業者にあっても前年比が増加していることもあって、景況感の悪化には至っていないという。半導体、液晶製造装置向け部品の販売は、前月比やや増加との声が多い。一部に減少した業者もあるが、こうした業者からも「前月と同じく半導体需要に伴う繁忙は継続」との声が聞かれたほか、「半導体業界は高止まりの状況が続く」などの声。産業機器や医療機器向け部品の販売は、業者により増減分かれるが、景況感好転、ないしは横ばいとの声が多い。建築用金属製品の売上の前月比は、やや増加も、景況感の好転には至っていないという。自動車向け部品の販売の前月比は、業者により増減分かれるものの、前年比は増加している。景況感が好転した業者が見られた。小型電磁機器の販売は、前月比横ばい、前年比やや減少との声。FA関連モーターの受注、販売は、前月比概ね横ばいも、前年比が増加しており、景況感も好転との声が寄せられた。電気、電子製品では、受注、販売とも前月比増加、景況感も好転との声。

地場産業

半生菓子、菓子原料等の売上は、前月比概ね横ばい～やや増加。景況感が好転した業者は見られないものの、前年比が増加した業者も見られた。水引製品の販売は、前月比概ね横ばい。一部に前年比はやや減少との声が聞かれたほか、景況感が悪化した業者も見られた。漬物の販売は、前月比増加も、「以前はお盆前に需要の盛り上がりがあったが、昨今は目立たない」との声が寄せられた。前年比は概ね横ばいの様子。

建設業

8月の建設業の景況DIは、0.0で、前月から横ばい。翌月予測DIは、プラス6.3で、前月より0.7ポイント上昇している。

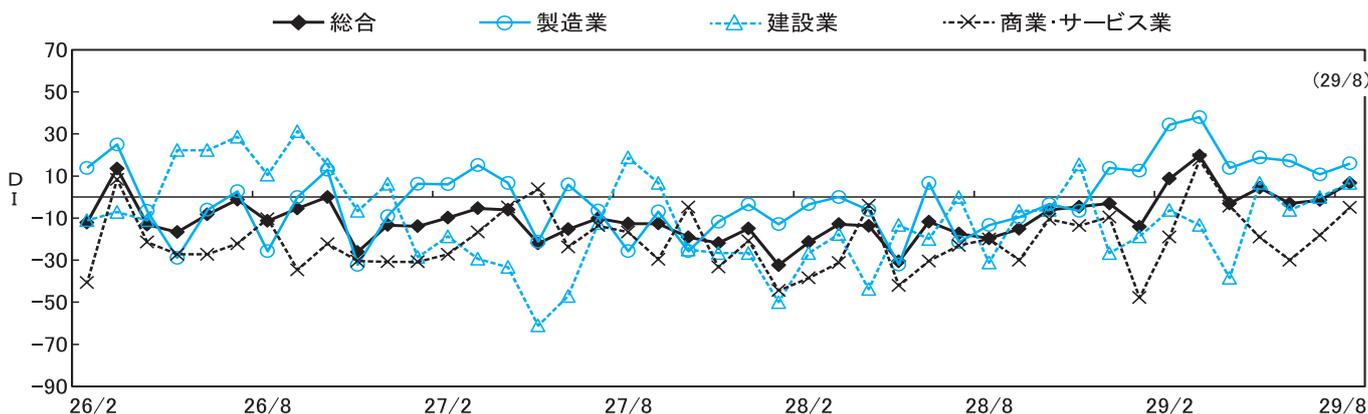
当地区における、当月の県、市町村発注工事の入札額合計は、約26.8億円で、前月比は267%増加、前年比も63%増加している(8月15日調査時点)。当月の調査先企業の受注残高の前月比は、やや減少との声も一部にあるが、「国、県、市とも発注し出した」など、横ばい～やや増加との声が多い。もっとも、景況感が好転した業者は多くはなく、「件数、金額ともに少ない状況に変化はない」などの声が多い。

民需の住宅着工戸数(7月)の住宅着工戸数は53戸。前月比7%減少、前年比も9%減少している。当月の調査先企業の受注残高の前月比は、横ばい～増加。景況感好転した業者も一部に見られたが、多くの業者で悪化には至らないまでも、好転していない。「仕事は出ているが、職人さんの確保に困るほどではない」などの声。

商業・サービス業

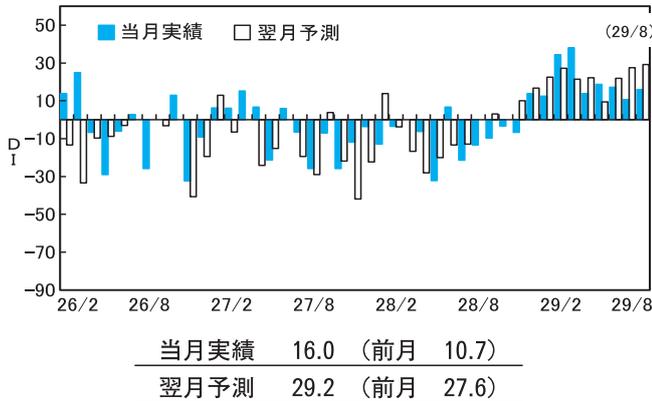
8月の商業・サービス業の景況DIは、マイナス5.0と、前月より13.2ポイント上昇。翌月予測DIは、マイナス9.1で、前月より9.1ポイント下降している。食料品の売上の前月比、前年比とも業者により増減まちまち。景況感も分かれ、好転した業者も見られた一方で、「客数減」などの声も。製菓、製菓用品卸の売上は、前月比やや減少、景況感に変化はない様子。家事用品卸の売上は、前月比、前年比共にやや増加。電化製品の売上は、前月比は業者により増減まちまち、前年比は概ね横ばい～増加。OA機器の売上は、前月比、前年比共に減少。衣料品の売上は、前月比は減少、前年比はやや減少～概ね横ばい。娯楽用品では、「夏休み、盆商戦ということで前月比売上増」との声。土産物関連の売上は前月比横ばい～増加。夏休みシーズンだったが、前年比が減少していることもあってか、景況感が好転した業者は見られなかった。松本自動車検査登録事務所管内の自動車新規登録台数は、新車は前月比22%減少、前年比1%増加。7月の県全体の軽自動車新規登録台数は、新車は、前月比7%減少も、前年比は8%増加。自動車販売、整備の売上は、前月比概ね横ばいとの声が寄せられた。市内料理店の売上は前月比、前年比共にやや減少との声。市内旅館の売上は、前年比やや減少との声が聞かれた。昼神温泉の売上は前月比増加。夏休み、盆休みに入り、ファミリー客、ナイトツアーを目的とした入込が増加した為とみられる。一部に、前年比較は減少との声も。タクシーの売上は、前月比やや増加、前年比は概ね横ばいとの声。

飯伊地区景況DI (本誌調査)



地区内製造業の景況判断指数

飯伊地区景況DI（製造業）



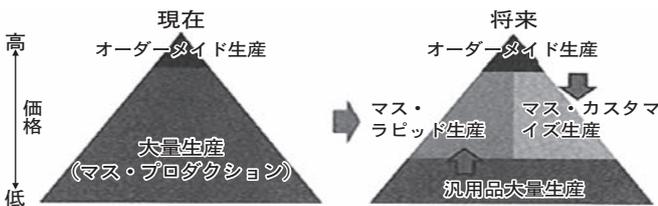
当月の製造業の業況判断指数（DI）は、プラス16.0で、前月から5.3ポイント上昇。翌月予測もプラス29.2で、前月から1.6ポイント上昇している。

平成29年版情報通信白書から

平成29年版情報通信白書第3章では、「第4次産業革命がもたらす変革」と題し、第4次産業革命によってもたらされる変革の可能性等を概観した上で、産業構造等に与える変化、また今後我が国が「第4次産業革命」を実現するための道筋を整理し、向かうべき方向性や重点的に取り組むべき課題を示唆している。

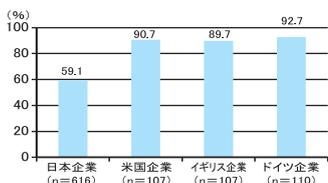
「第4次産業革命」とは、「デジタル技術の進展と、あらゆるモノがインターネットにつながるIoTの発展により、限界費用や取引費用の低減が進み、新たな経済発展や社会構造の変革が起こること」とされるが、製造業、流通業では、従来の大量生産（マス・プロダクション）から、新興国製造業との差別化等の観点から開発や生産のスピードを重視した「マス・ラピッド生産」、顧客1人1人からオーダーメイドの製品を既製品と同等程度のコストで注文生産する「マス・カスタマイズ生産」が進展するという。

製造・流通分野における変化



しかしながら日本の一般企業の第4次産業革命に向けた取組みは、他国企業と比べると低く、また、業種で見ると製造業、商業・流通、サービス業などの割合が低いという。

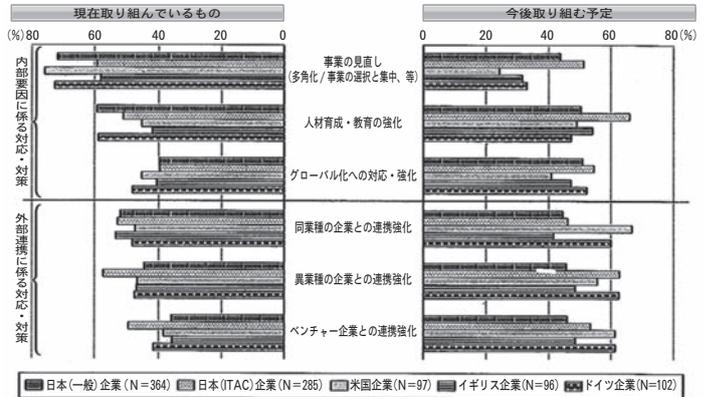
第4次産業革命に向けた取組み状況（「取り組んでいる」と回答した割合）



また、第4次産業革命に関わる日本企業であっても、第4次産業革命を、事業や業務・組織見直し、人材対策といった「内部的な要因に係る対策」として捉える傾向が強く、他国企業に比べてオープンイノベーション

ン、外部連携といった「外部連携に係る対応、対策」への志向が低いという。こうしたことから、「つながる」ことを核とする「第4次産業革命を機に、よりドラスティックな産業構造の変化」への対応が望まれるとしている。

第4次産業革命に向けた取組み内容



（図表出典は、全て平成29年版 情報通信白書）

機械加工製造業

電気、精密機械器具の販売は、前月比やや減少～横ばい。もっとも、やや減少とする業者であっても前年比が増加していることもあって、景況感の悪化には至っていないという。一部に先行き売上の増加を見込む声が多かった。原材料、資材価格や製品価格に大きな動きはなかった様子。雇用面は現状維持との声が多い。設備面では、「予定有り」「次月以降機械納入予定」など積極的な声が多い。

半導体、液晶製造装置向け部品の販売は、前月比やや増加との声が多い。一部に減少した業者もあるが、こうした業者からも「前月と同じく半導体需要に伴う繁忙は継続」との声が多かったほか、「半導体業界は高止まりの状況が続く」「半導体が回復」「スマホ、車載向け増産継続」「メモリー向け増産」「FPD関連良好」などの声が多かったほか、先行きについても「下期の動向によっては更に増加との情報もある」など増産を見込む声も少なくない。こうした中、「増産体制を整えてきた効果が出始めてはいる。しかし、まだまだ」「仕掛在庫が増加」などの声も。「アルミ材中心に上昇」など原材料、資材価格が上昇しているとの声も複数聞かれた。雇用面では、「中途社員複数名増員」「現状充足も、先行きはやや不足」「不足。人員が必要」などの声が多い。また、設備面でも「9月に導入。年内にさらに検討」「複数台導入。今後も複数台予定」「予定あり」など積極的な声が多かった。

産業機器や医療機器向け部品の販売は、業者により増減分かれるが、横ばい～やや増加との声が多い。受注面では、前月に比べ横ばいなし増加との声が多いが、減少との声も少なくない。こうした中、景況感には「親会社の海外進出強化に伴う受注減少が止まらない」など悪化した業者も複数見られたが、「今年度の新規取引先に対する立ち上げの準備が完了。近々納品を開始。また、来年度の新規取引先も決まり立ち上げ準備を始めた。目標達成に向け良い準備をしていきたい」「低価格帯の見積案件が動いている。同業他社も多忙と思われる」「全般的に高めで安定」「産業機械関連は、中国がまだまだ衰えていない」「医療機器では今年度は大きな動きはなさそう」「今までは毎月増産だったが、最近は横ばいになってきた」「少し仕事が落ち着いたように感じる」など好転、ないしは横ばいとの声が多い。先行きについては、強気な見方も少なくない。

雇用面では、現状維持との声が多いが、複数の業者から「複数名増員」「現状足りてはいる。しかし、世

代交代もあり不足する見通し。求人を見極めている」「先行きやや増員」などの声が寄せられた。設備面でも現状維持との声が多い中において、「考慮中」「機械導入」「機械導入予定」「一部増強」などの声も。当月、原材料、資材価格に大きな動きはなかった様子。一部に製品価格が下降した業者が見られた。

建築用金属製品の売上の前月比は、「例年通り、この時期少し動きが出てきた」などやや増加との声。しかし、「オリンピック絡みの物件がまだ動かない」など、景況感の好転には至っていないという。「来月から増加に転じる見込み」など先行きは増加が見込まれている。当月、原材料、資材価格に動きはなかったものの、「物件が出始めれば上昇するだろう」という。雇用面、設備面で積極的な声が聞かれた。

自動車向け部品の販売の前月比は、業者により増減分かれるものの、前年比は増加している。景況感が好転した業者が見られたほか、販売が減少したとする業者であっても、これは「夏季休業で稼働日数が少なかった」ため、景況感の悪化には至らないという。原材料、資材価格に関し、「アルミ材など有償支給材が高騰している」との声。雇用面では、「結婚などで退職者が出て補充がすぐにできない。求職者が全般に減少しているほか、特に若者が減っている。こうした傾向が続くだろう」との声が寄せられた。設備面では現状維持の様子。

小型電磁機器の販売は、前月比横ばい、前年比やや減少との声が寄せられた。先行きに大きな動きは見込まれていないという。当月、原材料、資材価格や製品価格に大きな動きはなかったという。

FA関連モーターの受注、販売は、前月比概ね横ばいも、前年比が増加しており、景況感も好転との声が寄せられた。「産業機械向け、車載向けともに増加で推移」といい、先行きもこうした基調が続く見込みという。原材料、資材価格が増加傾向にある一方で、製品価格がやや下降している状況が続いているとの声が寄せられた。

電気、電子製品では、受注、販売とも前月比増加、「国が推進する、健康経営、働き方改革の関係もあり、健康機器の需要が高まっている」など、景況感も好転との声が寄せられた。当月、原材料資材価格や製品価格に大きな動きはなかったという。

地場産業

半生菓子、菓子原料等の売上は、前月比概ね横ばい～やや増加。景況感が好転した業者は見られないものの、前年比が増加した業者も見られ、こうした業者からは「気温が低めだったことが理由なのだろうか」との声が聞かれた。先行きの見方は分かれるが、「秋の商戦がスタート。増加見込み」との声も。当月、原材料、資材価格や製品価格に大きな動きはなかった様子も、「運賃値上げの話が来ている」という。雇用面では概ね現状維持も、一部に「少々問題あり。人手不足が続く見込み」との声も。設備面では、一部に「実施中」との声もあるが、概ね現状維持の様子。

水引製品の販売は、前月比概ね横ばい。一部に前年比はやや減少との声が聞かれたほか、景況感が悪化した業者も見られた。「盆用品」に関し、「昨年とほとんど変わらない」「少々動いたが、祝儀用品が動かない」と販売は伸びない。新しい企画、販売先を拡大して落ち込みを最小限に食い止める努力をしている」との声。「盆過ぎから年末に向けて注文、引き合いが来るようになった」「来月からの正月飾りの販売に注力」など、先行きは生産増加が見込まれているが、こうした中、「11月くらいからの人手不足を懸念している。パート、アルバイトの募集を始めているが、連続で最低賃金が大幅に上昇した影響はどうか」との声が聞かれた。原材料、資材価格に関し、「運賃の値上げ等があり、製品の値上げを考える必要がある」との声のほか、「7、8月、中国は猛暑だったが当社仕入先には生産停止などの影響があったところもある」などの声。「水引を使った商品は多いが、特色がなく将来に繋がらない。競争ができる製品開発に力を入れたい」「信

州デスティネーションキャンペーンの一環として、飯田駅で水引細工を配布したところ、とても好評だったとのこと。こうしたノベルティやアクセサリーに活路があるように思う」などの声が寄せられた。

漬物の販売は、前月比増加も、「以前はお盆前に需要の盛り上がりがあったが、昨今は目立たない」との声が寄せられた。前年比は概ね横ばいの様子。原材料に関し、「8月は天候も例年とは違っていて、野菜に影響が出始めている」という。

その他製造業

食品関連包材の生産は、前月比横ばい、先行きはやや増加を見込んでいるとの声が寄せられた。当月、原材料、資材価格や製品価格に大きな動きはなかったという。

印刷、出版関連の売上は、「8月は年間で最も売上が少ない月。休日が多く発注が大きく減る。前年比ではほぼ同じ」との声が寄せられた。先行きは増加を見込んでいるという。雇用面で積極的な声。設備面では「営業車」「パソコン」の「更新」こそあるものの、「同業でも大きな投資の話は、なかなか聞けない」との声が寄せられた。

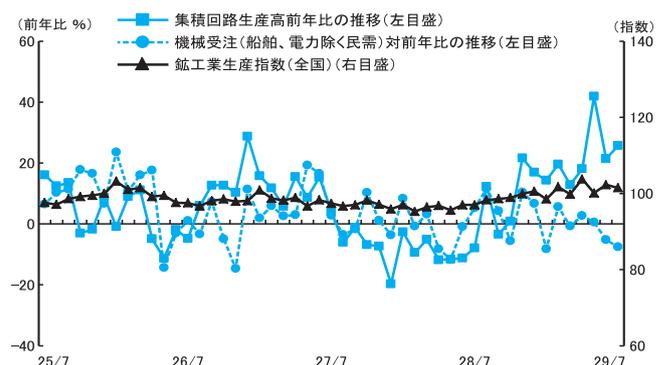
衣料品の受注は、前月比、前年比ともやや増加、景況感も好転との声が聞かれた。「バーゲンを早めに行ったところは、7月当初こそ売上は良かったが、プロパー消化が悪く、通して見ると全体的にマイナス。逆にプロパー販売期間を延ばし、バーゲンを遅くしたところは7月当初の売上は悪かったものの、8月の売上でプラスに転じた。今後はバーゲンを我慢して消費の欲しい商品をいかに長く販売できるかにかかっていると見えるだろう」という。雇用面の不足感が依然続いており、「Made in Japanのものづくりが求められているが、若手の入社が望めず技術の伝承をどうしていくか悩ましい」という。こうした中、「働く環境整備のための投資」などにも注力していきたいとの声が聞かれた。

住宅機器、オフィス家具や店舗用什器など家具の生産は、前月比、前年比ともやや増加との声が寄せられた。「昨年の数字が悪すぎたために、数字はプラスになった」というものの、当月の景況感も好転している。原材料、資材価格や製品価格に大きな動きはなかった様子。雇用面で「中途採用複数名。以後は受注状況を見ながら検討」などの声が聞かれたほか、設備面でも積極的な声が聞かれた。

【企業からのコメント】

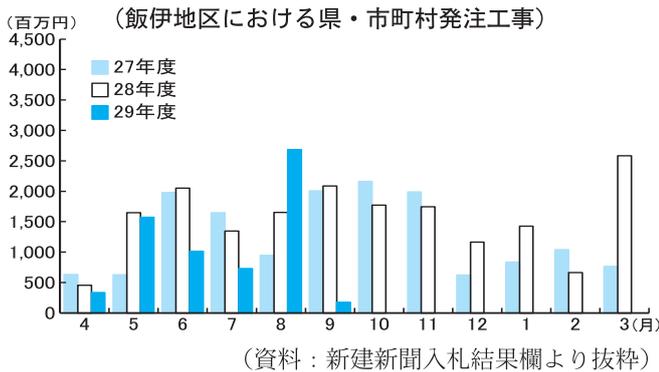
- ★開発要員が不足。
- ★公共物件向けで、当社がOEM生産している製品に動きが出ている。
- ★仕入先の御協力もあって、原材料価格に動きはなかった。
- ★スタッフのスキルアップで生産性の向上が課題。
- ★世の中が変わった。義理人情が通らなくなってきた。
- ★派遣会社、ハローワーク共に求人が少ない。

集積回路、機械受注・鋳工業生産指数の推移



建設業

月別入札額



当月景況DI 0.0 (先月 0.0)

翌月予測DI 6.3 (先月 5.6)

官公需

当地区における、当月の県、市町村発注工事の入札額合計は、約26.8億円で、前月比は267%増加、前年比も63%増加している(8月15日調査時点)。

当月の調査先企業の受注残高の前月比は、やや減少との声も一部にあるが、「国、県、市とも発注し出した」など、横ばい～やや増加との声が多い。もっとも、景況感が好転した業者は多くはなく、「件数、金額ともに少ない状況に変化はない」「仕事のない業者は他地区に行っている」「低調な状態が続いている。益が明けて発注が増えていくことを期待」「官庁発注物件数が少ない」「公共工事の発注は平準化してきているが、いかんせん仕事が少なく競争は激しい」「大型建築工事が発注されてきたが、十分に行き渡るほどではない」「リニア関連の調査、設計業務に予算が集中している模様。測量設計委託業務は活況だが、工事予算は少ないように思う。補正予算待ちの状況」「新規発注待ちの状況」などの声が多い。

雇用面では、多くは現状維持という。しかし、「現状は過剰感があるが、先行きは不足するのではない。交通誘導員が不足しているほか、下請け業者も、ある程度の発注があれば不足する状況になりつつある」など、人員にさほどの余裕はない様子が窺える。

民需

当地区の7月の住宅着工戸数は53戸。前月比7%減少、前年比も9%減少している。

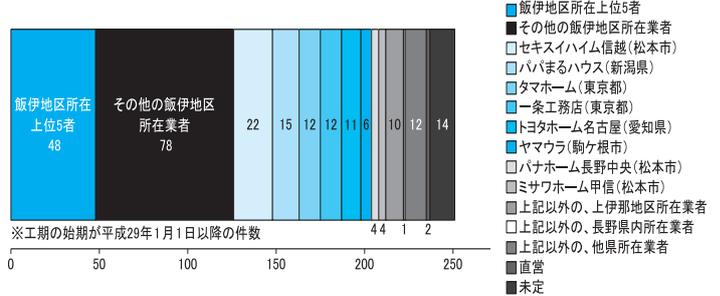
当月の調査先企業の受注残高の前月比は、横ばい～増加。景況感は、好転した業者も一部に見られたが、多くの業者で悪化には至らないまでも、好転していない。「当社としては大型工事が受注できたが、内容が厳しい」「仕事は出ているが、職人さんの確保に困るほどではない」「求人状況から見ると工業系には上向き感があるように見えるが、建設、建築にはない」などの声。住宅新築、リフォームに関し、「ポツポツという感じ。十分とは言えない」「リフォームのみ」「地元企業よりも、宣伝が上手だったり、格安を売り物にする大手メーカーなどの現場シートが目立つ」などの声が聞かれたほか、リニアに関連して「移転に伴う造成、新築工事が始まった」との声も寄せられた。

雇用面で、「現状人手不足。確保したい」との声のほか、「現状問題ないが、先を見ると新規採用をしたい」「高齢化している。人員を確保したい」など長期的な面から採用を検討する声が複数聞かれた。

飯伊地区における施工者別建築確認申請数

飯伊地区における本年1月1日に工期が始まった住宅、集合住宅の建築確認申請数251件を施工者別に見ると、申請時点で施工者が決定していた中では、セキスイハイム信越の22件が最も多く、次いでパパまるハウス15件などとなっている。当地区所在する業者が施工者となっていたのは126件で、その内上位5社で38%を占めていた。

施工者別 飯伊地区における住宅・集合住宅の建築確認申請数(件)



建設資材

塗料等建設資材の売上は、前月比、前年比ともやや増加、景況感も好転との声が寄せられた。先行き、仕入単価の上昇が見込まれているという。

鋼材の売上は、前月比、前年比ともやや増加も、「荷動きは相変わらず低調。目立った変化はなく、特に建設、土木関係は依然良くない。先行きも期待感は薄く、焦燥感が募る」など景況感の好転には至らないとの声が寄せられた。鋼材価格に関し、「鋼種によって細かい値上げはあったものの総じて当月まで様子見だったが、次月以降、仕入各社が若干の値上げに踏み切る予定」という。

生コンの売上は、前月比、前年比ともに業者により増減分かれる。「前月比は多少増加したが、出荷量は低迷。当地区では堰堤工事が発注になり期待したいが、本格的に始まるのはまだ先」「主な出荷はリニア関連工事、三遠南信自動車道関連工事、砂防工事だったが、前月比、前年比とも減少。リニア関連工事向けは前月よりやや増加した」などの声が聞かれた。

骨材等の売上は、前月比やや減少。景況感は、好転した業者は見られないものの、温度差があり「ここ数か月生コン業界がそこそこだった影響が出ているように思う。まだ仕事は少ないと感じるが、地域、時期に差はあるものの、昨年よりは良いのでは」「生コン向けの出荷が減った」などの声が寄せられた。一部に雇用面で積極的な声も。

【企業からのコメント】

- ★二次製品のブロック積材料で値上げの通知があった。
- ★それほどではないが、材木の値段がやや上昇。

住宅建築確認申請受付状況(※本誌調査による概数)

8月 ○飯田建設事務所分

新築 11件 (前年 9件)

増築 2件 (前年 2件)

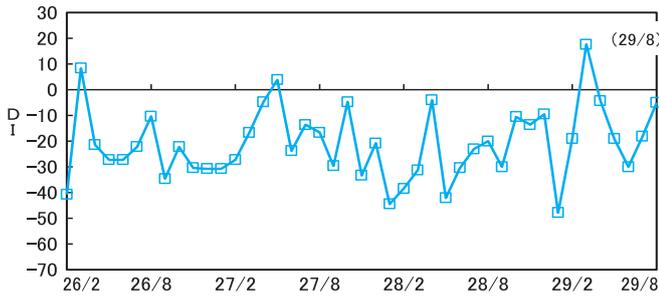
○飯田市役所分

新築 24件 (前年 18件)

増築 0件 (前年 1件)

※指定確認検査機関分を含む

商業・サービス業DI



当月景況DI	-5.0	(先月 -18.2)
翌月予測DI	-9.1	(先月 0.0)

商業

食品の売上の前月比、前年比とも業者により増減まちまち。景況感も分かれ、好転した業者も見られた一方で、「客数減」「中元の売上伸びず」などの声も寄せられた。先行きは弱含みとの声が少ない。「天候不順による野菜の不作」「水産は海の状況が良くなり不漁。特にサンマが悪い」など仕入価格が上昇との声は多い。

【青果卸売市場】

売上は、前月比、前年比とも増加という。野菜は、「昨年は主力商品の安値が続いていたが、今年は梅雨明けの天候も不順で盆前の台風の影響もあり入荷量は前年比6%の減、価格は10%高」という。果実は、「昨年、梨、りんごともに前進出荷となったが、今年は打って変わって生育遅れから出荷遅れとなり、りんごと梨は前年比3～6割の出荷量。桃は出荷が遅れた分お盆の需要と重なり、好結果。全体では入荷量7%減の価格は14%高」との声。

製菓、製菓用品卸の売上は、前月比やや減少、景況感に変化はない様子。

家事用品卸の売上は、前月比、前年比共にやや増加。「飯田市の指定ゴミ袋が盆過ぎから発売、売上増につながった」「他地区で同業者の廃業があり、その影響もある」「老人保健施設、病院等の業務品が増加傾向」などの声が寄せられた。

電化製品の売上は、前月比は業者により増減まちまち、前年比は概ね横ばい～増加。「天候が不順だったが、家庭用の小型エアコンが動いた」「暑い日が続きエアコンが動いた」「LED照明は新築物件、入替を伴うリニューアルともに好調な動き」などの声もあるが、「業務用の大型エアコンは物件が少なかった」「電設資材の物件がやや少なくなってきており不安が残る」などの声も聞かれた。

OA機器の売上は、前月比、前年比共に減少。「例年8月は1年の中で売上が最も厳しい月、今年も相変わらず厳しい一か月だった」「他地区では異業種からの参入がありそう」などの声が寄せられた。

衣料品の売上は、前月比は減少、前年比はやや減少～概ね横ばい。「今年から空調服が売れ始めた。今後力を入れていく方向」「依然、衣料品業界では消費への志向が低い」などの声が聞かれた。

娯楽用品では、「夏休み、盆商戦ということで前月比売上増」との声が寄せられた。

土産物関連の売上は前月比横ばい～増加。夏休みシーズンだったが、前年比が減少していることもあってか、景況感が好転した業者は見られなかった。「当店が立地している道路沿線の通行量の減少傾向が継続」「雇用面では充足」などの声。仕入価格がやや上昇しているとの報が寄せられた。

松本自動車検査登録事務所管内の自動車新規登録台数は、新車は前月比22%減少、前年比1%増加。中古車は、前月比11%減少、前年比は2%増加した。7月

の県全体の軽自動車新規登録台数は、新車は、前月比7%減少も、前年比は8%増加。中古車は、前月比16%減少も、前年比は6%増加した。

自動車販売、整備の売上は、前月比概ね横ばいだが、「新車と中古車の販売比率を前月と比較すると、新車が減少した一方、中古車は増加」との声が寄せられた。「中古車の相場は堅調。仕入の平均単価が上昇しているが、後半戦に向け仕入れ意欲が高まっている割にタマ不足なのが要因だろう。お盆を過ぎて商談も増加傾向。かつて当月は閑散期だったが、昨今は変化しているように思う」「軽の主力車種がモデルチェンジし、秋の商戦も活発になりそう。しかし、高齢化の影響も感じられる」などの声が聞かれた。

サービス業

市内料理店の売上は前月比、前年比共にやや減少との声が寄せられた。「ファミリー客が少なかった」「注文、来店共にお盆に集中しており、他の時期は売上が少なかった」「メニュー開発が急務」などの声が聞かれた。また、盆月ということもあって仕入価格がやや上昇しているが、販売価格は上げられないという。

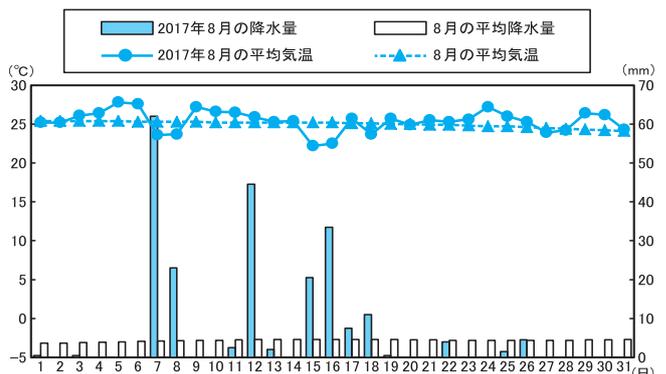
昼神温泉の売上は前月比増加。夏休み、盆休みに入り、ファミリー客、ナイトツアーを目的とした入込が増加したとみられる。一部に、前年比は減少との声も。ナイトツアーに関し、「九州や北関東など今までに見かけたことがない県外ナンバーの車があり、知名度は高くなっている感」「天候が非常に悪く、八月で星のきれいに見える日は一日位で、他の日は全く見えなかった。自然相手の難しさを感じるが、見えない日のお客さま対応について課題があり、仕方がないでは次に繋がっていかない気がする」「ナイトツアー目的のお客様は多いのだが、食事の飲み物の売上が少ない。一方、自販機のビールの売上はいつになく多い」などの声が聞かれた。雇用面や仕入面で、「少ない人数でフル稼働。紅葉シーズンが思いやられる」「野菜中心にやや売上上がり」などの声が聞かれた。

タクシーの売上は、前月比やや増加、前年比は概ね横ばい、「夜の需要が低迷しているが、落ち込み幅は小さくなっている」との声が寄せられた。「事業の継承、人事労務、有償福祉事業や乗合事業といった大きな問題が山積している中、他地区では廃止、統合等も現実化している。当地区でも市場規模の縮小、公共交通のあり方など真剣に検討していく必要がある」という。

【企業からのコメント】

- ★長野県の景況DIが50を越えたという記事を見たが、業界内でそんなに良いという話を聞かない。製造、建設が良くなれば販売も良くなると思うのだが。
- ★厳しい業況が続いているのではないか。
- ★設備関連のお客さまからは、受注が多く忙しいとの声も聞かれる。

飯田の気温と降水量



斜視 (十メ) 力のすすめ (34)

しんきん南信州地域研究所
主席研究員 井上 弘司

長い連載も今回が最後となりました。お読み頂いた皆様に感謝申し上げます。

さて最後の斜視力は、日本の国土防衛に非常に重要な国境離島の話にしました。過疎山村よりさらに厳しい現実のある離島ですが、なぜか若者移住が増加しているのです。

近隣諸国の海洋進出や日本の領海で珊瑚を勝手に取る、あるいは公海上のサンマを捕ってしまい日本近海のサンマの不漁が続くなど、この頃海洋の話題がニュースで流れることが多くなりました。

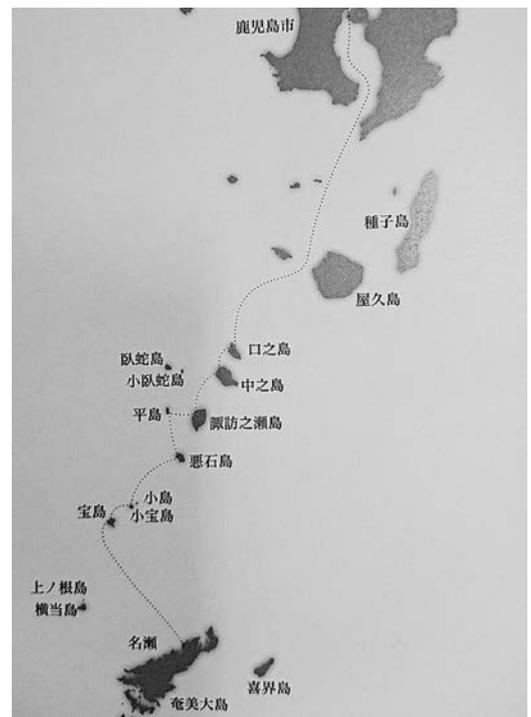
言うまでもなく、日本は国土の10倍以上の経済水域を持つ海洋国家です。その根拠となる島も、尖閣列島や小笠原諸島など有名ですが、誰も覚えてくれない島を含めると数えようによっては7,000島弱に及びます。中でも日本国民が居住している有人国境離島は、漁業、海洋における各種調査から領海警備といった国土防衛に至るまで極めて重要です。

しかし現在人口減少が著しく、将来無人島になる可能性もあり、近隣諸国による海洋進出が活発化している中、日本の主権が脅かされる事態になっています。このため政府は「有人国境離島法」を制定し、特定有人国境離島地域の保全を行っています。

■ 鹿児島県「十島村」ー吐喝喇(トカラ)列島

十島村(としまむら)と言っても、飯田下伊那の方々でどこにあるのかご存知の方は多くはないでしょう。十島村は、屋久島と奄美大島の間にある、有人七島(口之島・中之島・諏訪之瀬島・平島・悪石島・小宝島・宝島)と無人島五島で構成される南北約160kmの「南北に長い村」で最後の秘境といわれています。

天気予報ではほとんど名称で呼ばれませんが、「吐喝喇列島」は台風銀座と言われるほど台風が通過していきます。有人島はそれぞれが自然豊かですが、口之島から悪石島は海底火山からできた島々で、小宝島と宝島は珊瑚礁が隆起した島とのこと。特に悪石島と小宝島、宝島の周辺にはトカラギャップと呼ばれる海裂があり、鹿児島から南下するに従い非珊瑚礁域から珊瑚礁域へと緯度に伴う変化を自国内で観察することが可能な北半球唯一の海域だそうです。奄美大島に近く、ハブが生息していますが、種類が違



トカラ列島と定期船航路

うらしく毒性は弱いとのこと。私も朝の散歩で出くわすくらい住宅付近の草むらにいます。島の文化も独特で、

悪石島では盆の終わりに赤土と墨で塗られた異形の面を被り、ビロウの葉の腰蓑を巻き、手首や足にシュロの皮を付けた「仮面神ボゼ」（国の重要無形民俗文化財に指定）が、ボゼマラ（男根を模した棒）を持ち、女子供を追い回す祭りがあります。

太平洋戦争前までは今の三島村を合わせて十島村（じゅっとうそん）でしたが、北緯30度以南（屋久島より南側）が米軍占領下に置かれたため、本土復帰した昭和27（1952）年に正式分村して現在の十島村となりました。

当時3,000人弱の島民が暮らしていましたが、昭和45年の臥蛇島の無人島化を経験し、以後無人島化を防ぐ努力を重ねてきました。しかし、勤め場所も少なく、島民が中学校卒業後に島を離れたまま帰ってこない状況が続き、29年6現在、少ない島で約60人、多い島でも約150人足らずの小さいコミュニティとなり、村の総人口が694人（386世帯）と、人口減少の大嵐が停滞したままです。

■ 村営「フェリーとしま」の旅

この島々に行くには週2回運航（7～9月は3便）している村営の「フェリーとしま」（定員200人）が唯一の交通手段です。夜11時に鹿児島港を出港したフェリーが最南端の「宝島」に到着するのは次の日の昼頃。約13時間の長大航路です。夜中の出航で最初の口之島に到着するのは明け方の5時。うっすら明るくなってきて、次の中之島辺りで太陽が昇ってきます。

諏訪瀬島では、埠頭でGT（Giant Trevally）と言われるロウニンアジを釣り上げようという釣り人たちの多くが下船します。全長150cm以上、重量50kg以上という大物のアジを釣りあげることはなかなかできず、釣り人の憧れとなっています。

平島は、平家の落ち武者伝説が残る島で、「平家の穴」と呼ばれる洞窟のほか、平家にゆかりのあるという史跡が数多く残り、トカラヤギに出会うこともできます。

平島にはビロウの葉を前身に纏い、家々を訪問するカセダウチ（福德神）という無病息災と豊作を祈る伝統行事が残っています。各家では酒を飲ませ歓待するなど、遠く離れた秋田男鹿半島の「なまはげ」と共通点があります。

海の色がエメラルドグリーンになるのは、悪石島周辺の火山島を過ぎ、隆起サンゴ礁の島々になる小宝島付近からで、港の水深が5m以上もあるのに海底の珊瑚や魚が泳ぐ姿を見ることができます。



23時、出航前のフェリー「としま」



↑ロウニンアジ

↓トカラヤギ



そして鹿児島からフェリーで約13時間、目的地の有人島でトカラ列島最南端の宝島に着くのはようやく昼頃です。高速船を約3時間乗れば奄美大島に着く宝島は、琉球石灰岩の島でたくさんの鍾乳洞があります。イギリスの海賊キャプテンキッドが財宝を隠したという言い伝えの残る観音堂という鍾乳洞もあります。

奄美大島や沖縄を往来する飛行機から見るとハート形をしたこの島は、女性向け沖縄旅行のツールに使われたりしています。

面白い取組では、この定期船を使う「トカラ列島島めぐりマラソン」で、船を乗り継ぎながら各島を3kmずつ、合計22km走るものです。人気のマラソンで例年全国から多くの申し込みがあり、抽選で走れるかどうかが決まります。

■生活の生命線「フェリーとしま」

「フェリーとしま」は各島の生命線ですが、船の入出港に専門の人たちがいません。そのため各島では住民で「荷役組合」を作り、船が着岸するときに当番制で出動します。大人の出役は駐在所のお巡りさんも学校の先生も例外はありません。早朝でも仕事が忙しい日中でも関係なく、島民は船が接岸するために綱を引き、荷物の積み降ろしを行うことが島民の最優先事項なのです。しかし最近では人口減少の一方、高齢化に伴って荷役の回数も増え、ジワジワと生活を脅かし始めています。Iターンの若者は「島暮らしは良いが、早朝の荷役が辛い」とこぼしていました。



島民が綱を引き、船を接岸させる

現在は船が直接埠頭に接岸できますが、かつてはそうではなく、繁殖和牛の種牛を島に入れる時、牛をクレーンで降ろし岸まで泳がせたそうです。

島に運送会社はなく、港で降ろされた荷物は、伝票を書いて埠頭の倉庫に置いて、島民に連絡すると、各戸が港まで受け取りに来るかたちになっています。金融機関は口之島と中之島、宝島にのみ郵便局があって貯金の引き出しができます。

島には雑貨屋が1店舗あれば良いほうで、スーパーもコンビニもなく、欲しいものは個人的に鹿児島や奄美大島から取り寄せるしかありません。当然宅配便の取り扱いがないため、島で特産品開発をして販売するのに輸送コストがネックになっています。

■島の暮らしと産業

本州では考えられないことですが、役場は鹿児島市内にあり、役場に勤める40歳以下の島出身者がいません。聞けば採用試験を受けに来る島の若者がいないとのことで、いずれ島をふるさとにしない職員ばかりになることを肥後村長（宝島出身）は心配していました。

どこかの島に役場庁舎を建てる計画は何度もあったそうですが、「今より不便になる」と島民に反対されて断念しています。島の経済循環や島出身者の採用を考えれば村内にあるべきなのでしょうが、島間の移動が極めて不便なことや、役場の用事のついでに鹿児島での買い物が日常化していること、島間で誘致争いはしたくないなどが理由でしょう。

病院は無く各島に僻地診療所を設置し看護師1名が常駐しています。一番人口の多い中之島には鹿児島赤十字病院から派遣された医師が常駐し上4島を巡回、下3島は奄美大島の大島病院が巡回診療をしています。

現在小学生が53名、中学生は28名いますが、その中には村が進める「山海留学生」も11人います。次の項で若者のUIターンが増加していることを書きますが、それに伴い昨年4月から諏訪瀬島と小宝島の学校が分校から本校に昇格し、校長が常駐するようになりました。全国で学校の統廃合が猛烈な勢いで進む中で本校設置は、文部科学省も異例だと驚いています。

ちょうど同じ船で平島に新任の小学校教諭が赴任しました。島の小学生3人が港で先生を出迎えるところに遭遇しました。



新任教諭をお出迎えする子どもと父兄

島で暮らすためには産業があり、雇用や起業ができないといけません。現在、移住した人たちは新たな農業や漁業の創出や、島野菜、果樹の栽培、保育園や福祉施設勤務などで生計を立てています。

島では、トビウオやカツオ、金目鯛など豊富な魚種を水揚げする漁業が盛んで、船からトビウオが飛ぶ姿も見えました。毎日三食を提供してもらった民宿ではトビウオなど出汁に使う下の魚で客に提供するものではないと思っているようで、海の無い私たちにとってはごちそうなのですが、まったく食卓に上がりません。このことは私たちの地域にも言えることで、本当に来訪者が喜ぶ新鮮な野菜や果樹でおもてなししているか？ですね。



↑トビウオの唐揚げ

↓繁殖和牛

漁業の課題は冬場の時化と台風シーズンで漁に出られない日が多いことです。

島内はうっそうと茂った亜熱帯性の植物に取り囲まれ、農地などほとんど無いと思いきや、意外なことに農業も島の大きな産業になっていました。主な品目は島ラッキョウやビワ、観葉植物のサンセベリア、島バナナ、大名タケノコで、中でもブランドの「鹿児島黒牛」となる繁殖(生後10ヶ月で出荷)が盛んで、放牧畜産が島の基幹産業となっているのです。



とは言うものの人口減や高齢化の波は島に容赦なく訪れ、島の暮らしや産業などに影響を与え始めています。

そのため村でも様々な支援を展開し、農業や漁業の活性化を図っています。

■若者が移住する十島村

本土から離れた特殊な環境下、日常生活にも不便を感じる島々で、子どもたちは帰ってこない、役場にも勤めたがらないという状況なのですが、魅入られたように他県から島へと若者世代が移住していて、平成22年と平



↑ 飛魚とさわらの燻製生ハム



↑ 芭蕉布の古着 ↓ 釜焚塩



成29年を比較すると100人以上、毎年連続して人口が増加しています。私も数人のUターン者について話を聞きましたが、若い世代の後継者が帰島しつつあり、Iターン移住だけでなくUターンも進捗していることを確認しました。

島の中でも最もIターン者が多い宝島で、数名の方にヒアリングしました。

Iターンのリーダー格である竹内功さんは、5年前に建築関係の仕事を辞めて島に移住し、トカラ列島で最大の島らっきょう農家になるとともに、トビウオ漁などの漁業でも精力的に活動しています。

5年でここまでたどり着くのに、荒廃砂丘農地の開拓や大学生の農業ボランティア受け入れなど、体制整備から環境整備まですべて一から既存の住民たちと作り上げてきました。

とにかく面倒見の良い方で、移住してくる若者の仕事を作ったり、機械や船、倉庫など無償で使用させています。

常に新しいことに挑戦していく竹内さんは、4月に住民有志と「一般社団法人宝島」を設立し、サワラやトビウオの燻製生ハムを開発し販売。最近では島のバナナから繊維を取り出す「芭蕉布」を復活させるプロジェクトを起し、今の時代にマッチする昔の伝統工芸品の形を模索しています。

宝島に移住した友人を訪ねた和歌山県出身の高木義浩さんは、自然の豊かさや人の温かさに触れ2011年に移住しました。島の農業の先輩に弟子入りし、荒廃した畑を開拓して島バナナなどの農産物を栽培しながら、ミネラル豊富な海水を薪だけで約1週間かけてゆっくりと炊き上げる伝統的な製法で天然塩づくりを行っています。またサトウキビを栽培して砂糖を絞るなど、現在ではもう誰もやっていない塩と砂糖の手づくりを始めました。

広島出身の本名一竹さんは、妻と当時生まれて3カ月の長男を伴い、宝島で暮らしはじめました。島の特産品である島バナナは傷つきやすく、商品にならないバナナが捨てられているのを目の当たりにし、「捨てるバナナをゼロにすること、島全体の所得を増やすこと」を目標に大量の原料用島バナナを生産者から直接買い取り「宝島 島バナナコンフィチュール」を開発。「2013年かごしまの新特産品コンクール」で、みごと観光連盟会長賞を受賞しました。現在も、島で捨てられているピワやスイートスプリング、魚のアラなどの商品化に取組み、新商品づくりをすすめています。

離島の未来を感じさせる取組も進んでいます。直径11mのプロペラタービンを海面から30~50mの深さに浮遊させる海流発電「かいりゅう」の実証実験が口之島で始まりました。将来的には2千キロワット規模の発電を目指すとのことで、新たな離島振興や海洋産業振興に繋がるものと期待されています。

■国境離島から本土を俯瞰すると

文政7年(1824)8月、イギリス船が宝島に来て島民に牛を譲渡するように要求しました。しかし郡司がそれを拒否したため、20名から30名のイギリス人が島に上陸し牛3頭を略奪しました。この事件で幕府役人もイギリス人1名を射殺します。これも一つの要因になって、翌年の文政8年(1825)、幕府は異国船打払令を發布します。

その争いがあった場所は「イギリス坂」という地名となり、この事件に材をとって吉村昭が短編小説『牛』を書いています。事ほど左様に江戸時代から今に至るまで憎まれ船も現れているのです。諏訪瀬島には本年2月に座礁したケミカルタンカーSAGANが放置されていて、海洋汚染が心配されています。

こうした外的要因があるにも係わらず、十島村では住民の相互扶助で生き抜こうとしています。顧みて本土の我々はどうでしょう。過疎高齢化が進み、自分たちでは何もできないと言う方もいます。しかし、今まで本当に何か行動してきたでしょうか。

行政の存在意義は「住民の幸せ」を創造することです。そして住民も家族の幸せから地域の幸せに繋がる努力をしなければ地域の未来はありません。

十島村では予算や人材に制約があっても、移住者や帰島者の「居場所」づくりや、それぞれの役割づくり、そして新たなコトにチャレンジできる環境を創っています。ただ単にIターン者の受入を進めるのではなく、移住者に寄り添いながら、その人が持つ能力を活用してチャレンジできる、住民と協働できる環境を整えることが大切です。

国境離島だけでなく私たち本土の中山間地域も、日本の国土防衛、保全に大きな役割を担わなければなりません。そして、高齢化社会にあっては、高齢者も地域の未来を担う若者を支援するという大事な役割を持っています。

二宮尊徳は「遠くをはかる者は富み、近くをはかる者は貧す。それ遠きをはかる者は百年のために杉苗を植う」と言いました。

自分が生まれ育った地域の未来へ、若者という苗を植林する時期です。それは地域丸ごと共生社会の実現に向けての一步となるでしょう。



トカラの未来

執筆者 井上弘司(いのうえ ひろし)：1952年飯田市生まれ。飯田市エコツーリズム推進室長、産業経済部企画幹、企画部企画幹を経て2009年3月退職。現CRC地域再生診療所所長、NPO法人しんきん南信州地域研究所主席研究員。観光カリスマ百選(国土交通省)、地域活性化伝道師(内閣府)、地域力創造アドバイザー(総務省)、地域再生マネージャー(ふるさと財団)。

「NPO法人 しんきん南信州地域研究所」は、地域の情勢分析や政策提言、情報発信などを目指して、飯田信用金庫を主体として設立された地域シンクタンクです。地域の皆様の交流の場としても広く解放しております。お気軽にお立ち寄り下さい。

■所在地 長野県飯田市知久町1-9 まちカンビル2002
■在籍研究員 井上 弘司 安藤 隆一
■TEL 0265-59-7701
■FAX 0265-59-7701
■E-mail think-t@mis.janis.or.jp

リニア山梨県駅と山梨県内の状況

当課ではリニア中央新幹線中間駅地域の信用金庫との情報交流を進めておりますが、このほど山梨県へ2回目の訪問を実施し、山梨信用金庫（本店：甲府市）、甲府信用金庫（本店：同）と情報交換を行いましたので概略を紹介します。

1. 山梨県内の状況

山梨県内で工事が始まっているのは、南アルプストンネル山梨工区（早川町）のみ。

山梨県内の地上部は、甲府盆地（いわゆる「国中」）で実験線を除く部分は約15kmあり、移転対象先は相当数に上ります。その中には小学校も含まれています。「移転対象の小学校は、移転新築計画が既に決定した」とのことでした。

リニア山梨県駅周辺にサッカー専用球技場の設置が「スポーツやイベント等の開催を通して、県民に夢と希望を与える場とともに、交流人口の拡大や地域経済への波及効果を創出する」（山梨県「リニア環境未来都市整備方針 平成29年3月、以下「整備方針」）ためとして掲げられていました。Jリーグ1部ヴァンフォーレ甲府のホームグラウンドとなっている「山梨中銀スタジアム」は小瀬スポーツ公園にありますが、陸上競技トラックのある総合競技場であり、球技専用の競技場を、サッカー競技場でリニア駅周辺の賑わい創出を、との声により専用球技場構想が浮上したものです。

しかし最近の検討の中で、新球技場は小瀬スポーツ公園に設置することで決着しそう、とのこと。従って山梨県リニア駅周辺整備は球技場を設けないこととして進められます。

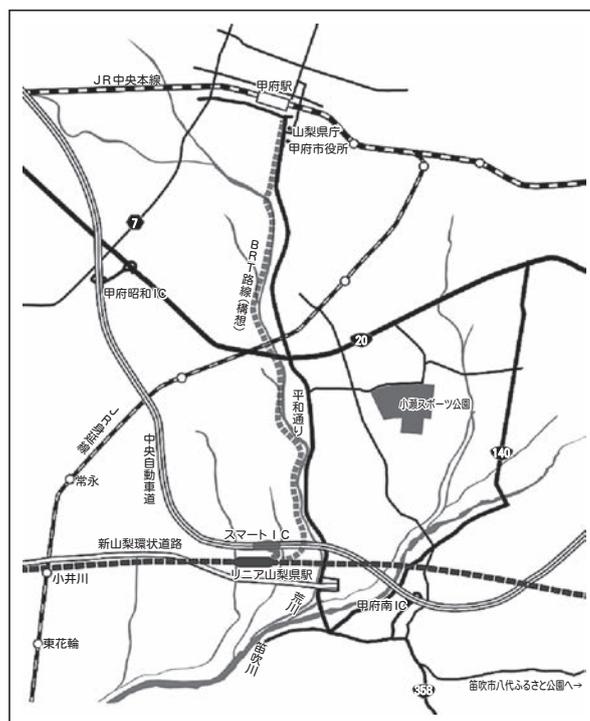
リニア駅と市中心部とを結ぶアクセスとしてBRT(注)構想が唱えられていましたが、「整備方針」では「利便性の高いバス交通ネットワークの構築」との記述にとどまっています。山梨県交通政策会議においてBRTについて論議が行われているようですが、結論には至っていない模様です。

※ BRT：Bus Rapid Transit の略で、バス専用道路、バスレーン、PTPS（公共交通優先システム）を組み合わせ、定時性、速達性を確保するもの。



JR 甲府駅前 武田信玄公像と甲府の街並み

甲府市およびリニア駅周辺地図



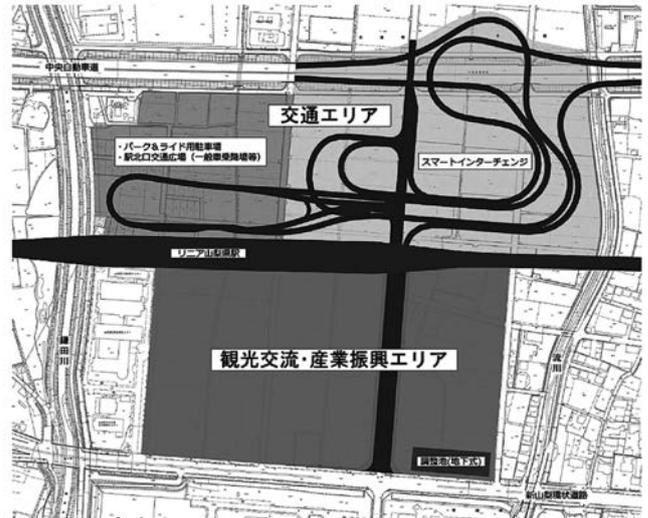
2. リニア山梨県駅周辺整備計画の概要は

前述の「整備方針」は、平成25年7月から28年1月にかけて開催された「山梨県リニア駅周辺整備検討委員会」において策定された「リニア駅周辺整備基本方針」（以下「基本方針」）と併せ、平成27年8月から28年7月にかけて「山梨県リニア環境未来都市検討委員会」での検討により策定されたものです。

「整備方針」は、リニア駅周辺整備区域を含む駅から半径4km程度を対象として「整備する施設や機能などの基本的な内容」、「まちづくりの目指すべき姿とその実現に向けた取り組み」、「リニアの開業効果を県内全域に波及させる取り組み」（「整備方針」）を明らかにする、としています。

リニア駅の機能面についてのみ触れると、「基本方針」の案より「交通エリア」でスマート ICからのランプウェイが大きくとられ、駅の南北を結ぶ基幹道路や新山梨環状道路との結節を意識したものとなっていること、駅南側の「観光交流・産業振興エリア」を「基本方針」案より一体化したものとしていることなどが目につきます。

リニア山梨県駅エリアと施設・機能（イメージ）



（「リニア環境未来都市 整備方針」（山梨県HPより））

3. リニア山梨県駅予定地など現地は

リニア山梨県駅予定地は、特に動きが見られませんでした。

前回訪問に引き続き、笛吹市のリニア実験線が展望できる「八代ふるさと公園」の「リニアの見える丘」を訪ねました。

当日は実験線の試乗日ではありませんでしたが、テスト走行と見られるリニア車両が目の前を通過していきました。低速のため、音もなく滑っていく、という感じでした。

公園には前回訪問時にはなかった展望台が設置されており、リニアの走行する風景を更に楽しむようになっていました。



リニア山梨県駅予定地



八代ふるさと公園・リニアの見える丘と新設展望台（笛吹市）
（リニア対策課撮影）

（飯田信用金庫 地域サポート部 リニア対策課 加藤 修平）

流れ雲の目（19） 空飛ぶ潜水艦

飯田信用金庫 地域サポート部
専門アドバイザー 小泉 敏郎

従業員150人程の、ある電気部品メーカーの話である。

このところ何年も前から業績が芳しくない、赤字が数期連続している会社に、新しい社長が赴任してきた。親会社の役員クラスがこの会社の社長として派遣されてきたのだ。彼はこの会社を再生するために派遣されたのであるが、三年頑張ってもダメなら会社整理もやむを得ないと指示されていた。この会社に来て分かったことなのだが、従業員は凄く真面目に良く働いている、仕事も結構あり夜遅くまで残業もしている、しかし業績が果敢と芳しくないのだ。黙々と働く従業員の姿を見て、彼は何としてもこの会社を生き返らせたいと思った。

彼は、まず初めに全従業員の名前を書いた顔写真を部下に作成させ、結構苦労しながらも150人の顔と名前をすべて覚えた。人間、自分の名前を呼ばれるのと呼ばれないのでは反応が違って来る。そうでなくても従業員は親会社から来た社長を会社整理に来た人と斜に構えていた訳であるから。事あるごとに相手の名前を呼び話しかけることをした。名前を呼ばれた従業員も最初は戸惑って、辛うじて返事だけをしていたが、回を重ねるごとに従業員の方からも社長に話しかけてくるようになってきた。

新社長は毎週月曜日の全体朝礼で従業員にいろいろな話をした。

仕事は私が取ってくるので心配しないでいい。しかし取ってきた仕事を金に換えるのは皆さんの役割だ、仕様通り不良を出さずに効率よく納期に間に合うように生産して欲しい。

そして簡単な数字の話をした、例えば利益が10%の製品なら1個不良を出すと、後の9個はただ働きになるのだと。例を挙げ全員の顔を見廻しながら丁寧に説明をした。

とにかく製品不良はゼロにしよう。製品不良を出して得をするものは誰もいない、我々も損をするが、お客様に対しても納期遅れを起こすことになり迷惑を掛けることになる、得するのは材料メーカーだけだと繰り返した。

今後二年間の具体的な方針、数値目標、行動目標を明示し、更に海底深く沈んでいる潜水艦の絵を壁に掲示した。その潜水艦から伸ばした潜望鏡も海面には届いていない。

二年後にはこの潜水艦は浮上するのだと。昔の映画の題名ではないが潜水艦浮上せずにはさせないぞ、必ず浮上させるのだ。今はまだ潜望鏡も水面には届かない、このままではそう長くは保たない、皆で力を合わせて必ず浮上しようと力強く言い切った。

しかし社長はそう断言したものの本当はまだまだ自信があるわけではなかった。それでも全従業員の前で言い切ったのだ。

そこから本当の戦いが始まった。過去のデータをくまなく調べて、業績悪化の真の原因は何か？売上げはこれだけあるのに何で利益が出ないのだ？利益を出すのはどうすれば良いのか？製造業の場合、主な管理ポイントは売り上げ、材料費（購入材料）、人件費（加工費）、必要経費（電気、ガス水道、輸送費、その他）である。

簡単に言えば売り上げを増やす、売値を上げる、材料費を落とす、人件費、経費を下げることしかない。しかしながら売り上げ増加、売値upは自社の努力だけではとてもできない、材料の仕入れ値を下げるのも相手があることだしそう簡単にできることではない。

自社の努力でできることは材料費と加工費そして管理費、経費しかない、材料費を減らすには絶対に不良品を作らないことだ。人件費もすぐには減らせない、減らすには生産効率up、そして不良品を出し二度手間を掛けないことだ。

出荷製品の個別の事後原価計算書を調べ、過去の赤字製品をリストアップした。

個々の製品の利益を把握した後でその製品担当営業と対策会議を行い、結果赤字製品を徐々に削減していった。その他あの手この手で対策を打ち、採算性が良化してきた。

従業員とも議論を交わし、過去の生産方法を否定する場面もあり、とにかくその二年間は会社存亡を掛けて改善作業に全員で没頭した。

従業員も改善効果が少しずつでも見えてくると目の色が変わり、積極的に改善活動に邁進してくれた。一年目に潜水艦の潜望鏡が海面すれすれになり、もう少しあと一步と目標が近づいてきた。工程内損金も激減し遂にその時が来た、海の上に潜望鏡が顔を出し、そしてとうとうその姿を海上に現したのだ。潜水艦の艦首部分が現れ、そして船の全容が現れたのだ。

月曜の朝礼、社長の緊張した姿があった、全従業員の誇らしげな顔、そして社長の挨拶。ただ一言、皆さんお疲れ様でした、そして有り難う。それ以上の言葉はいらなかった。

食堂の壁には、晴れた空の下、海面に浮かぶ優美な潜水艦の絵が掲示されていた。

現場の若い社員が手を上げて前に飛び出し、壁の絵に手を加えた。潜水艦の側面に大きな翼を描き加えたのだ。社長この潜水艦はこれから海面を離れ空に浮かびます。すると別の若い従業員が、社長これは空飛ぶ潜水艦だと、それを聞いていた皆がそうだ空飛ぶ潜水艦にしようと。まるで宇宙戦艦大和みたいだと従業員の歓声が上がったのだ。

社長は目に涙を浮かべ、ようし皆と共に大空に飛び出そうと大きな声で言った。

目標達成が近づくと従業員の顔は真剣になり、達成し黒字になると顔は明るくなります。そして顔や態度が明るくなるとモチベーションも上がり、更に改善活動が活発になっていきます。改善が進めば進むほどその効果も一層高まり、どんどん上昇スパイラルになるものなのです。

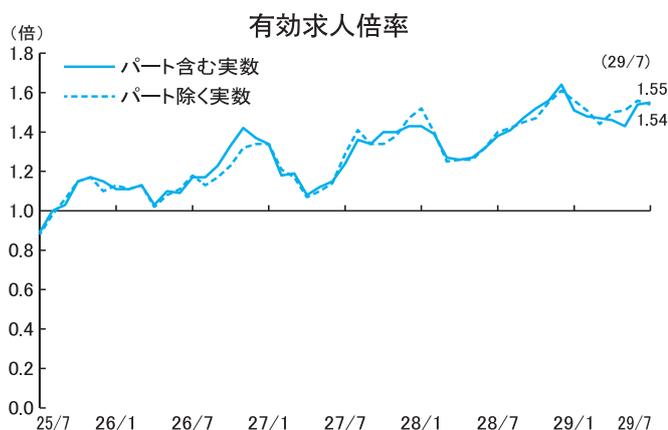
会社は社長次第で良くも悪くもなります。しかし社長一人では何も進みません、従業員の力あってこそ高利益を生むことができるのですね。

飯田信用金庫では、2名の専門アドバイザーによる継続的な事業支援を行っています。

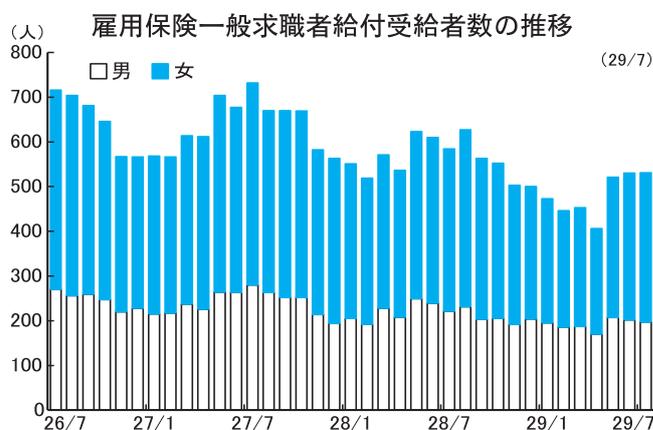
今回執筆を担当した当金庫専門アドバイザー 小泉 敏郎 は、工場、営業、企画など製造業の各部門を経験し、取締役、社長として経営にも携わった経験を基に、皆様の工場等を拝見し、お話を伺った上で、多角的な視点から、皆様の課題の解決に向けた取組のお手伝いをさせていただきます。

ご用命は、飯田信用金庫 地域サポート部 企業経営サポート課（飯田市本町1-2 飯田信用金庫4階 TEL 0265-53-5811 FAX 0265-53-1132）まで お気軽にお申し付けください。

雇用の状況



7月の月間有効求人倍率は、パートを含む実数で1.55倍と、前月から0.01ポイント上昇。パートを除く実数は1.54倍で、前月から0.02ポイント低下している。



7月の雇用保険一般求職者給付の受給者数は前月に比べ、男性は5人減少、女性は6人増加しており、全体では531人と前月から1人増加している。

(資料：ハローワーク飯田)